○ 地域での動き

新しい生産者

レインボーファーム神石高原(株)では，標高 300～550mのほ場で，今年度からキャベツの周年出荷に取組んでいます。栽培面積は延べ4ha，若い担い手を含む専従者 4 名で栽培管理と日量 50～100 ケースの出荷を行っています。

専従者の一人で，専務取締役の清水さん(31 歳)は，「キャベツという品目だけで何とか生計を成り立たせたい。まずは1000 万円の売り上げを上げることが目標。」と話をされました。 栽培 2 年目で技術的な不安もある中，春先からの天候不順も重なり，気を抜けない栽培となっていますが，そのような逆風にも負けず，真剣にキャベツについて話をされる姿には県域キャベツの明るい未来が感じられます。

取材に答える清水さん

秋作に向け定植中のほ場(8 月 3 日)

新しい技術

昨年度作成した標高別作型表，防除指針に引き続き，加工業務用向けに対応した県域リレー産地を築き上げるため，県内各地にさまざまな展示ほ場を設け，低コスト･省力栽培，品質統一化，労務効率化等に取組んでいます。標高別作型表と防除指針を検証し，展示ほ結果と併せ，最終的には全県で統一した栽培指針，経営指標を完成させるため，関係機関，生産者で協力し，取組んでいます。

スプリンクラーかん水
((農)天狗の里(8 月 11 日))

設置中の展示ほ

	展示ほ	目的と概要
育苗	セルトレイ施用薬剤による定植後の生育安定	残効性の長い薬剤利用による定植後の長期被害防止と病害虫防除の省力化を図る。
かん水	かん水設備(スプリンクラー)による生育安定	定植後の活着とその後の生育を促進，計画出荷を実現する。
土作り	土壌改良(深耕)による生育安定	サブソイラを利用し，作土層を確保し，生育安定を図る。
防除	ミネラル G と消石灰を組合せた土壌高 pH 栽培による根こぶ病防除	高 pH が持続するミネラル G は高価。安価な消石灰と組合せ，低コスト化を実現する。
収穫	先進事例の調査による労務管理の確立	最も労力を要する収穫の効率化に向け，模範事例を分析する。
機械	規模拡大に伴うさらなる機械化の実証	企業経営に適したさらなる機械化の検証を行う。
品種	加工業務用向けに周年供給できる品種の実証	県域リレー産地化に向け，標高別に栽培できる時期と品種を追及する。

○他県に見るキャベツ栽培（愛知県田原市の場合）

愛知県は日本一のキャベツ産地(H20：面積 5,250ha，収穫量 24 万 t，算出額 170 億円(愛知県 HP))で，全国の栽培面積の約 1/6 を占めています。そのうち約 4,500ha の栽培面積がある温暖な田原市，豊橋市の秋冬キャベツが有名です。

今回は，田原市の栽培技術で，県域キャベツで導入すべき技術について紹介します。

① 揃った苗づくり
セル苗は全自動移植機に合せ，生育の揃った苗に仕上げます。生育の揃った苗を作ることが，ほ場の一斉収穫に向けての第一歩です。

② ムラのない施肥
ライムソアで施肥を行うことで，施肥ムラが少なく，生育が揃います。ブロードキャスターでは，生育ムラが起こり，収穫に影響します。

③ 防除の効率化
フェロモントラップで害虫の発生時期を見極め，適期防除を行い，農薬の効果を最大限に引き出し，防除回数の削減に努めています。

④ かん水設備の設置
かん水設備を利用し，定植後の高温乾燥による生育(活着)不良，結球不良(小玉化)を防ぎ，計画出荷と収量確保を可能にします。

※写真①～④は JA 愛知みなみ常春部会 HP より引用

編集後記：
日本農業新聞に県域キャベツが掲載され(7/11)，全国的に広島県のキャベツが話題になっているようです。地域･部会など組織的な連携を大切にして周年リレー産地化のため生産拡大に取り組みましょう！ (K)